

第二章 夫のために石となる女たち—望夫石説話を中心に—

はじめに

第一章で、父親のために身売りをする景清の娘糸竹に関連して、日向系景清物とともに、韓国のパンソリ『沈清歌』を取り上げたが、『沈清歌』の根源説話の一つとして日本の「さよ姫」(作品によって名前に当てられる漢字がまちまちであるが、引用の場合を除いて「さよ姫」と表記する)説話を取り上げられている。

さよ姫説話は日本各地に分布するが、その内容は大きく二つに分かれる。その一つが、『沈清歌』の根源説話と関係のある、「生け贄系統」で、もう一つは、戦争に出る夫を遠く海上に臨んで領巾を振ったという、「領巾振る山系統」である。

さて、景清の娘(謡曲『景清』などでは人丸、『大仏殿万代石楚』では糸竹)をめぐるのは、第一章でみたように、身売りをして父親に孝行するという、生け贄系統に近い話がある一方、近世になると、恋仲の畠山重忠の息子との間で望夫石説話と結びつくことになる。この点は、韓国に生贄系統のさよ姫に類似する語り物の『沈清歌』があり、また別のルートの伝承に、「領巾振る山」系統のさよ姫説話に関連があると思われる望夫石(堤上)説話があることを考え合わせると、興味深い。

これまで、日本の「さよ姫説話」、韓国の『沈清歌』に関する個別的な研究は両国でそれぞれ相当蓄積されており、両者の関連についても、多くの先学によって指摘されてきた⁽¹⁾。韓国での『沈清歌』とさよ姫説話との関連説は、主に、『沈清歌』の根源説話としての視点で行われてきた⁽²⁾。日本での場合は、さよ姫説話と『沈清歌』⁽³⁾とのモチーフ上の類似を指摘したものが多かった⁽⁴⁾。いわば、これまで『沈清歌』との関連で取り上げられたさよ姫説話は、生け贄系統のさよ姫説話に限られていた⁽⁵⁾。本章では、これらの先行研究をふまえた上、生け贄系統のさよ姫説話に限らず、領巾振る山系統のさよ姫説話も含めた、二系統のさよ姫説話を全体として展望し、韓国との関連を広い視野から捉えてみたい。

まず、モチーフの面で日向系景清物に繋がる系統の「さよ姫」説話と、『沈清歌』とは別のルーツで伝承される望夫石(堤上)説話を中心に取り上げる。次に、景清の娘人丸と畠山重忠の息子との間に存在する望夫石説話を考察し、主に、生け贄系統のさよ姫説話に通じる、日向系景清物に登場していた人丸が、領巾振る山系統のさよ姫説話に見られる、「望夫石」説話と結びつくことの意味を考える。

第一節 「さよ姫」説話

日本のさよ姫説話は、その内容からして「生け贄」系統と「領巾振る山系統」があると先述したが、『沈清歌』の根源説話としても取り上げられる生け贄系統の説話は、御

